



第33期放射線安全取扱部会 部会長、副部会長ご挨拶

第33期部会長就任にあたって

部会長 渡部 浩司



この度、松田尚樹前会長からバトンタッチする形で第33期部会長に就任しました。どうぞよろしく願いいたします。コロナ禍においても本部会が活発に活動してきたのは、松田前部会長のアクティブなご活躍のおかげであり、

その後任としてはいささか迫力に欠けることは自認しつつ、ポストコロナ時代の新たな部会づくりにぜひ尽力したいと考えております。

昨年まで大学等放射線施設協議会の会長という役を仰せつかり、大学内の放射線施設についてはいろいろ勉強させていただき、ある程度理解しているつもりです。一方、本部会は、放射線を取り扱う大学、民間、病院等、様々な業種の方々によって構成されており、大学の常識が他の業種ではあてはまらないケースがかなりあるのではと想像しています。そのため、様々な部会員のいろいろなご意見に耳を傾けたいと考えております。異なる業種が存在するという状況は時に軋轢を生みますが、異なるモノ、ヒトを混ぜることにより、全く新しい価値を創造できるはずです。部会員の皆さんも様々な業種の方々と交流できる良い機会ですので、本部会をぜひ活用ください。

現在、国内における放射線の安全取扱いを担う人材の不足は危機的な状況にあります。この状況を生み出したのは、我々にも責任の一端があるのではないのでしょうか？放射線安全管理業務は危険でたいへんな仕事というイメージが、新参者の入り口を閉ざし、業界全体の活力を失わせている要因になってい

るような気がします。コロナの時代を経験した我々は、あの閉塞感を身に染みて分かっています。皆さんの放射線施設がコロナ禍まっただ中の公共施設のようにないでしょうか？少し肩の力を抜いて、ちょっと新しい世界をのぞいてみませんか？新しい世界を見る良い機会が放射線安全取扱部会年次大会です。今年は、日本のおへそ、長野で10月に開催されます。ぜひ全国津々浦々から、様々な業種の方に集まっていただき、放射線安全取扱いの楽しい話で盛り上がりしたいと思います。

私事ですが、これまで私が所属していた東北大学サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター（CYRIC）が2024年4月に改組され、東北大学先端量子ビーム科学研究センター（Research Center for Accelerator and Radioisotope Science, 通称 RARIS（ラリスと発音してください））という名称に変更されました。東北大学には、大型加速器施設として、サイクロトロンを所有するCYRICと電子加速器を所有する電子光科学研究センター（ELPH）の2つがありました。またCYRICはアイソトープ総合センターと加速器施設という2つの機能を持つセンターでした。このCYRICとELPHが統合され、国内に類をみない2つの大型加速器とアイソトープ総合センターが同居する新たなセンターができたわけです。上に書いたとおり、全く異なる機能を統合することにより、新たな価値を生み出す良い機会になるはずです。ぜひこちらの活動もご期待ください。

（東北大学先端量子ビーム科学研究センター）

副部長（企画専門委員長）就任にあたって

副部長 山本 由美



この度、副部長（企画専門委員長）に就任いたしました東北医科薬科大学の山本由美と申します。2期4年間、企画専門委員として務め、今期は前任の渡部先生から委員長の職務を引き継ぐこととなりました。どうぞよろしくお願い

願ひ申し上げます。

私の放射線安全取扱部会との最初の接点は、2015年に金沢で開催された年次大会に参加したことでした。参加された部会員の皆様からはたくさんお声掛けをいただき、初参加の私を仲間として温かく迎え入れてくださったことを大変嬉しく感じた思い出があります。本部会によって生まれた横のつながりは、対面からオンライン、そしてハイブリッドへと、時代に即して変化しながらも続いて参りました。多様化が進み、情報過多なこの時代に、様々な職種や背景を持つ放射線取扱主任者が集う本部会は、ますます重要なコミュニティとなっていくことでしょう。管理する施設の規模の大小や属性等によって、必要となる情報も細分化され、多岐にわたるようになりました。企画専門委員として、様々な背景を持つ部会員の皆様の声を共有し、どのような属性の方にとっても、部会に入っていて良かったと思っただけのような企画を考えて参りたいと存じます。

部会員の皆様、そして今はまだ部会員でない主任者の方々にも、魅力的だと思われるような企画を提案していくのも企画専門委員会の役割と考えます。部会員の皆様のご期待に沿えるよう、企画専門委員会のメンバーと共に積極的に活動して参りたいと思います。部会長を支え、そして部会員の皆様と一緒に、本部会活動を精一杯盛り上げていく所存です。皆様ご指導、ご助力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

（東北医科薬科大学）

副部長（広報専門委員長）

副部長 角山 雄一



このたび副部長（広報専門委員長）の任を賜りました京都大学の角山と申します。これより会員の皆様のお力を拝借しながら粛々と活動に取り組んで参る所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

このところ、毎日のように新たな技術を取り入れた製品やサービスに関連するニュースが届いて参ります。ロボットやサイボーグ、ドローン、EVに自動運転技術等、かつての少年時代なら夢かSFでしかなかったものがここ数年の間に次々と我々の暮らしの中に組み込まれております。しかしそのペースは大変に速いようにも感じます。例えば、コロナ禍を契機に、学校教育現場ではデジタル教材やクラウドサービスを活用したオンライン授業等が急速に普及しました。今やデジタルトランスフォーメーション（DX）は当たり前なのだそうで、10年以内にAI技術を積極的に取り入れたAGI（Artificial General Intelligence）を利用する世界へと移行するとの予言もごぞいます。マイコンの記憶媒体だったカセットテープや、音響カプラのアナログ通信が発する音を記憶している身としては、次々と登場する新しい技術の話題に心が躍るばかりです。私たちの足元でも、RIや放射線の利用における新たな息吹を感じるニュースが届いております。例えば、次世代放射光施設 NanoTerasu の稼働開始や、セラノスティクスをはじめとする核医学分野や先端的な放射線がん治療における目覚ましい技術の進歩や臨床への普及等、夢溢れる話題が尽きません。広報専門委員の一人として、最新ニュースと共にこういった明るい話題を少しでも皆様にお伝えできればと考えております。また副部長といたしましては、他の学協会との連携や情報共有等も積極的に心掛けつつ、前任の柴田理尋先生の後任として恥じぬよう、部会長はじめ他の本部運営委員の皆様と力を合わせて本部会を盛り立てて参りたいと存じます。本部会へのご意見、アイデア等々歓迎致しますので、どうぞ遠慮なくお声がけください。

（京都大学環境安全保健機構）